

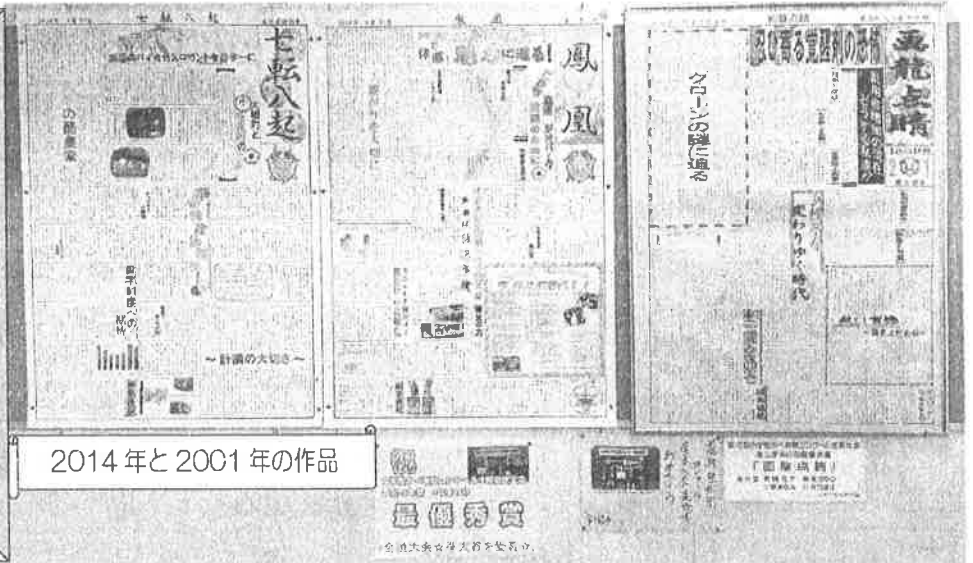
『瓜幕中学校における実践について』

鹿追町立瓜幕中学校 掛水成幸

1 かべ新聞の制作と展示

瓜幕中学校では、毎年文化祭にあわせ、各学級でかべ新聞の制作を行っている。

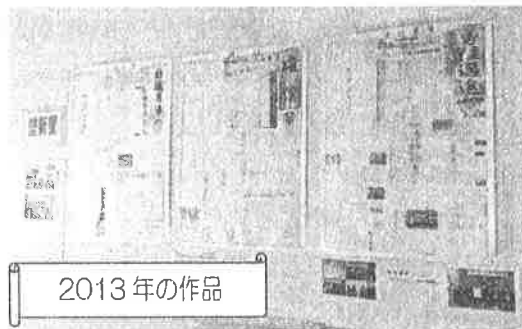
最新作と道東大会で最優秀賞を受賞した2001年の作品は生徒玄関、その他過去の作品(5年分)は体育館玄関にそれぞれ展示している。



2014年と2001年の作品



2009年~2012年の作品



2013年の作品

生徒はかべ新聞制作にかかわって実物を見て新聞のレイアウト・記事・見出し・点描や色付けなどの工夫を学ぶことができる。

過去のかべ新聞の記事を比較することで、2011年の震災以降では、防災の取組みや原発・自然エネルギーなどエネルギー問題が重要視されていることや、鹿追町の取組みの流れを知ることができる。

瓜幕中かべ新聞(過去7年間)の主な記事			
2009年	「地球学」始まる	鹿追町町制施行50年	地産地消の期待
2010年	外来種ウチダザリガニ	鹿追の氷室型貯蔵庫	部活動合同チーム
2011年	東日本大震災	天然記念物と外来種	人気の学校ブログ
2012年	防災と原発	町の省エネの取組み	地域の歴史と拓殖鉄道
2013年	鹿追ジオパーク	バイオガスプラント	環境保全と水害
2014年	ジオパーク比較	鹿追の温暖化調査	バイオガスと新特産物
2015年	鹿追の食PR	学校ICT革命	自然体験留学増加

2009年から新地球学が始まり、関連した記事が多い。特に震災以降では防災やエネルギーの記事が多く、注目度の高さがわかる。また、最近では鹿追町で2013年に認定されたジオパークに関する記事が多くなっている。

▲網掛けされた新地球学(2009年から文科省の指定を受けた研究開発教科)に関する記事が多いことがわかる。

2 小中連携授業における新聞の活用

小中連携授業（社会科）

日 時 平成27年10月21日（水）1校時

生 徒 瓜幕中1・2年生，瓜幕小通明小5・6年生

授業者 掛水（瓜中）大山（通明小）福原（瓜小）

場 所 瓜幕中図書室

- 単 元 名 『世界の諸地域・日本の諸地域』（地理的分野）
- 本時の目標 新聞の中から必要な情報を収集する力を高める。（技能）
社会科の学習と一般社会のつながりを感じることで今後の学習や新聞への興味を高める。（関心・意欲・態度）
- 本時の学習

	学習活動	教師の働き	小学生の活動	中学生の活動
導 入	○授業の流れ ○新聞の内容確認	・授業の流れを説明する。 ・自由に新聞を読ませ興味を持たせる。	・新聞を開き内容を見る。	・新聞を開き内容を簡単に確認する。
ミッション：新聞から情報をみつけだせ！				
展 開	○新聞から 情報収集① 「漢字のみの語句」	・できるだけ文字数の多い漢字のみの語句を探し出すよう指示。 ・グループ交流。 ・社会科の学習との関連性を補足説明。	・新聞から文字数の多い語句を見つけだす。 ・見つけた語句について交流する。	・新聞から文字数の多い語句を見つけだす。 ・見つけた語句について交流する。 ・小学生のサポートをする。
	○新聞から 情報収集② 「大きい数字」	・できるだけ大きい数字を探し出すよう指示。 ・グループ交流。 ・社会科の学習との関連性を補足説明。	・新聞から大きい数字を見つけだす。 ・見つけた語句について交流する。	・新聞から文字数の多い語句を見つけだす。 ・見つけた語句について交流する。 ・小学生のサポートをする。
	○新聞から 情報収集③ 「世界の国」 「都道府県」	・新聞の中から国名や都道府県名を探し出すよう指示。	・新聞から国名や都道府県名を見つけだす。	・小学生が見つけた国名や都道府県名が正しいか確認する。
ま と め	○まとめ・感想	・本時の取り組みを振り返る。	・本時の感想を述べる。	・本時の感想を述べる。

生徒の感想(中学校分)

【1年生】

- 新聞で多くの文字の漢字を見つけるのや大きい数字を見つけるのはやったことがあって教えながら「〇〇〇文字」などという会話がはずんでよかったと思う。
- 新聞で情報を新たに見つけ出すことができた。小学生も負けないくらい大きな数字を見つけるのをがんばっていた。また、小学生で見つけ出せなかった人の手助けができて良かった。また社会の授業を小学生と行いたい。
- 新聞を使った授業がおもしろかった。小学生も楽しんでくれたと思う。
- 新聞で探す授業で小学生がほぼ一人でやってくれた。
- 新聞を見たりして交流ができた。新聞で色々なことがわかってとてもたのしかった。

【2年生】

- 新聞を使っての授業は3回目だったので、小学生に色々と教えることができた。
- 今までやった新聞よりも大きい数を見つけることができた。小学生と一緒に楽しくできたと思う。
- 小学生と一緒に新聞を調べられたので楽しかった。新聞に少し興味を持ったので、これからは読んでみようかなと思った。
- 自分の事じゃなく、5・6年にしっかりと教えてあげる事ができて良かったです。また交流する機会はあるので、アドバイスを考え、教えてあげたいです。

成果と課題(教師)

(1) 成果

- 指導生徒が楽しく授業参加していた。
- 中学生が小学生をサポートし、授業を進めることができた。中学生が小学生に対し学習したことを発表することができた。小学生が新聞を読むきっかけづくりになったと思われる。

(2) 課題

- 目標に対してどの場面でどのように評価するかを次年度考えなければならないと思う。
- 学年にあわせた目標を達成することが難しい。
- 小中間で事前打ち合わせの時間が取れなかった。



小中学生に全体説明



新聞から情報を探す



実物投影機で全体に発表

社会科ワークシート	世界の地形図と日本の地形図	氏名
ミッション 新聞から情報を見つけだせ!		
①漢字を見つけだせ		
自分が見つけたもの		
仲間が見つけたもの		
②数字を見つけだせ		
自分が見つけたもの		
仲間が見つけたもの		
③国や都道府県を見つけだせ		
	世界	日本
◎今日の授業の感想		

新聞とのかかわりから笑顔あふれる学校風土の醸成を図る

鹿追町立瓜幕中学校 教諭 掛水 成幸

1 はじめに

本校は、普通学級3学級、特別支援学級1学級の全校生徒31名の小規模校であるが、自然体験留学生を受け入れるなど多様な生徒が学校生活を送っている。また、文部科学省の研究開発学校に指定され、鹿追町独自の研究開発教科である「カナダ学」「新地球学」「実社会数学」を行うなど特色ある教育活動を行っている。

NIE実践校としては、今年度で2年目の指定を受けた。これまでも本校では総合的な学習の時間や新地球学の授業で新聞づくりを取り入れ、学習したことを文章や表、グラフなどを使ってまとめる活動を行ってきた。さらに、昨年度からは新聞提供事業を受けることで、生徒会活動による新聞閲覧コーナーの整備、新聞記事を活用した授業の実践等を積極的に行うことができた。

今回の実践報告では、本校の重点テーマの1つである「心の開放を表現する笑顔と歌の輪が広がる学校風土の醸成」に向けた新聞とのかかわりについて紹介したい。



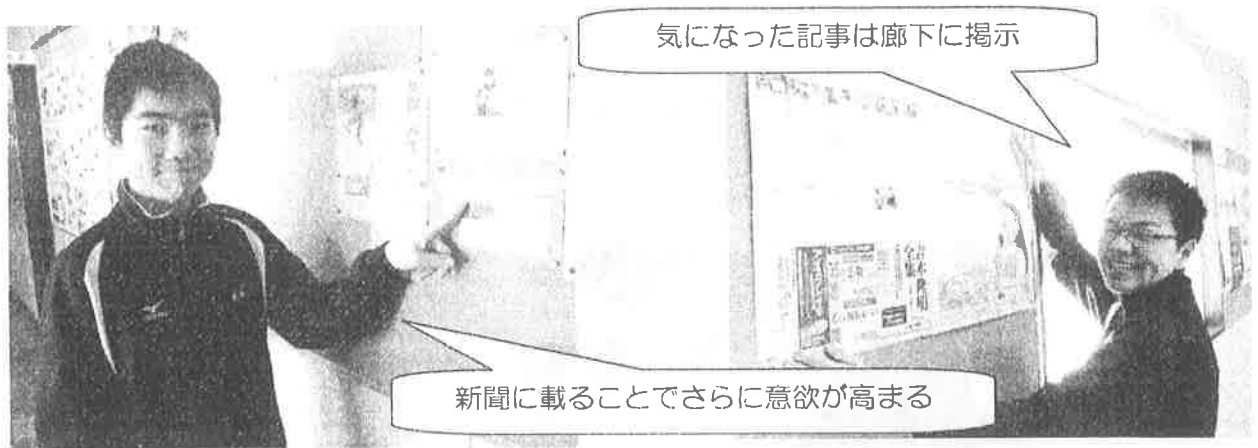
毎朝学習委員が新聞コーナーを整える

2 実践報告

(1) 新聞を読んでの笑顔

昨年度から受けている新聞提供事業により、本校では新聞閲覧コーナーの整備を生徒会活動に位置づけている。学習委員が毎朝学校に届く新聞を閲覧コーナーにならべ、月ごとに溜まった新聞を図書室の新聞コーナーに置き、授業等で活用できるようにしている。

学校に届く新聞記事の中には、身近なニュースや各種コンクール、部活動の結果も掲載されることが多く、本校の生徒の活躍も見ることができる。生徒がかかわる記事や話題のニュース、新聞の特集等は廊下に掲示されている。自分のことを新聞で見つけると多くの生徒はうれしさから笑顔になり、学習や部活動に対してもさらに意欲が高まっている。



(2) 新聞づくり・新聞スクラップでの達成感からの笑顔

今年度も新聞にかかわって多くのコンクールに出品し、多数の賞を頂いた。毎年継続して取り組んでいるものが多く、本校の文化的な伝統となっている。

新聞づくりでは、企画検討、取材や記事・見出しの作成、レイアウト等、グループで活動することが多く、学級の仲間づくりに大きくかかわっている。

新聞スクラップでは、社会への関心を高めるとともに、記事の読解から自分の考え深めることで、思考力の向上につながっている。

平成 26 年度受賞したコンクール

3 学年 (個人)	全十勝かべ新聞コンクール最優秀賞 全道かべ新聞コンクール準大賞 全十勝学級新聞コンクール最優秀賞 全国学級新聞コンクール努力賞 全十勝新聞スクラップコンクール最優秀賞・優秀賞 優良賞・佳作
2 学年 (個人)	全十勝学級新聞コンクール最優秀賞 全国学級新聞コンクール努力賞 全十勝新聞スクラップコンクール優良賞・佳作
1 学年 (個人)	全十勝新聞スクラップコンクール優良賞・佳作

《受賞の感想と、後輩へのアドバイスをもらいました》
3年連続で受賞できて嬉しいです。内容は地域的なことに興味がわき、今回取り上げました。事件・事故などの暗い記事だと考えも書きづらく、書いていても暗くなるので、地域的な話題でも明るいものを選びました。自分で付けた記事ごとのタイトルは、記事の中野言葉やイメージから考えました。自分の考えを書いた部分は、記事に蛍光ペンでマークしてわかりやすくしました。



(3) 新聞を使つての授業 道徳「笑顔について考える」

内容項目 2-(2) 人間愛・思いやり

学習目標：人はどんな時に笑顔になるのか

学習内容	
導入	<p>① 最近うれしかった時ってどんな時だったか。</p> <p>② 目標提示</p> <p>人はどんな時に笑顔になるのか</p>
展開	<p>③ 新聞記事から人の笑顔を探し、記事と合わせて切り抜く。</p>  
	<p>④ なぜその人は笑顔なのかを個人で考える。</p>  
	<p>⑤ 記事と個人の考えをもとにグループ内で交流する。</p>  

⑥ グループ内で、人はどんな時に笑顔になるのかをまとめる。

人はどんな時に笑顔になるのだろうか？

・時限は残った時
 ・おめでとうを言われた時
 ・優越感、満足感、達成感
 ・自分に受けた時

人はどんな時に笑顔になるのだろうか？

自分の実力を試して結果を残すことができた時、
 開発したものに期待している時、注目されている時。

人はどんな時に笑顔になるのだろうか？

目標を達成したとき、
 将来を期待するとき

⑦ グループ内でまとめたことを、
 全体で発表する。

⑧ 自分の考えをまとめる。

・人がうれしいと感じて笑顔になるのはどんな時だろうか。

人はうれしいと感じて笑顔になるのは、どんな時に笑顔になるのだろうか？

困った時に助けしてくれたとき
 努力したことをほめられたとき
 良い結果、成果を残すことができたとき
 自分のした事に人が笑顔良くなったとき

人はうれしいと感じて笑顔になるのは、どんな時に笑顔になるのだろうか？

自分の成果が出たとき、
 自分にとっていいことがあるとき

・自分がどんなことをしたら、人はうれしいだろうか。

自分がどんなことをしたら、人はうれしいだろうか？

困った時に助ける
 良いと思ったことをほめたり、役に立つアドバイスを送る
 明るく待てる

自分がどんなことをしたら、人はうれしいだろうか？

その人のためになることをする。(手伝う)
 一緒になにかをやりとげる

・卒業までに保護者、学校、後輩を喜ばせるとしたら、どんなことができるだろうか。

卒業まであと1か月。保護者、学校、後輩を喜ばせるとしたら、どんなことができるだろうか？

日頃の感謝の気持ちを伝える(「ありがとう」を言うなど)
 何か贈り物をする
 後輩へアドバイスを送る

終

末

3 まとめ

新聞には、記事以外にも写真や広告など、生徒にとって興味関心を引き出す資料がたくさん盛り込まれている。今回の道徳の授業では、写真と記事から「笑顔」について考えることを行った。写真にかかわる記事を読むこと、自分の価値観で判断せず、確かな根拠をもって考えさせることができた。授業の中でも写真や記事を見つけた時や、グループ内で交流する場面でも生徒の多くの笑顔を引き出すことができた。今後も新聞にかかわる活動を通して、生徒の多くの笑顔を引き出したい。

新聞づくりと新聞を活用した学習について

鹿追町立瓜幕中学校 教諭 掛水 成幸

1 はじめに

本校は、3学級で全校生徒35名の小規模こうであるが、自然体験留学生を受け入れるなど多様な生徒が学校生活を送っている。また、文部科学省の研究開発学校に指定され、鹿追町独自の研究開発教科である「カナダ学」「新地球学」「実社会数学」を行うなど特色ある教育活動を行っている。

NIE実践校としては、今年度から2年間の指定を受けた。これまでも本校では総合的な学習の時間や新地球学の授業で新聞づくりを取り入れ、学習したことを文章や表、グラフなどを使ってまとめる活動を行ってきた。さらに、今年度からは新聞提供事業を受けることで、新聞記事を活用した授業の実践や、新聞コラムを使った家庭学習指導を積極的に行うことができた。

今回の実践報告では本校でのさまざまな新聞づくりと教科等における新聞を活用した学習の実践について紹介したい。



2 新聞づくりの実践

(1) はがき新聞づくり

本校では、地域の文化を学校に取り入れる取組みとして、定期的に地域の人や高校生の絵画や写真、書道の作品などを展示する「瓜中ギャラリー」を行っている。その展示に合わせて、国語科では全学年ではがき新聞の制作を行っている。

生徒は自分の興味のある展示を選び、その作品の説明や自分の感想、お礼などをはがきサイズの新聞にまとめている。

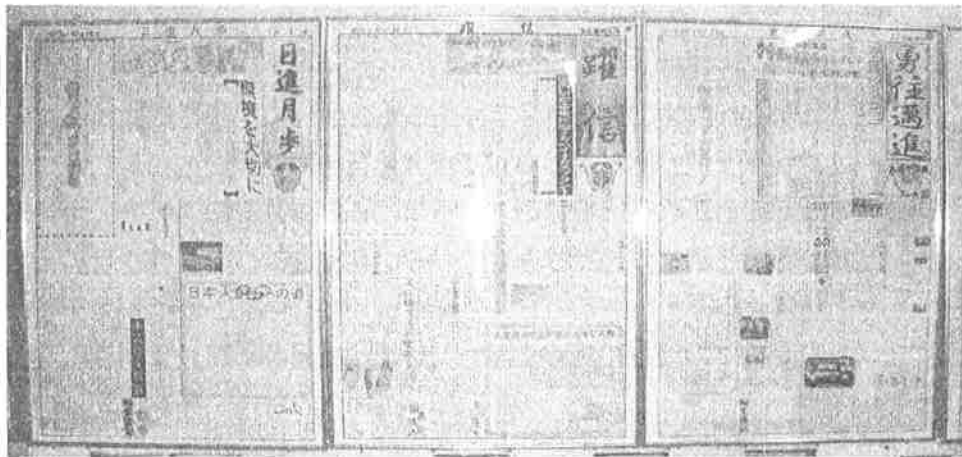


(2) 学習新聞づくり

1学年では、新地球学での校外学習のまとめを、新聞用の模造紙を使って行った。初めて協力して制作する新聞だったので、新聞の作り方について講習会（講師は中村宏喜校長）を開き、その後2グループに分かれて、学習新聞づくりを行った。文化祭でのかべ新聞制作へステップアップしていった。

(3) かべ新聞づくり

毎々参加する学校が少なくなっているかべ新聞だが、本校では継続して各学年ごとの制作を行っている。記事については新地球学での学習を中心としながらも、温暖化



や外来種、エネルギー問題など身近なことから国際問題につながる記事が多くみられた。

中学校かべ新聞十勝地区コンクールに出品し、3学年は最優秀賞、2学年は優良賞をそれぞれ受賞した。その後の全道かべ新聞コンクールに十勝代表として出品された3学年の作品は、2年連続準大賞を受賞することができた。

(4) 学級新聞づくり

2・3学年はPCを活用し、これまでの行事や教科の学び、部活動などについてB4サイズの学級新聞を制作した。制作した新聞は、全十勝学級新聞コンクールに出品し、2・3学年の部ともに最優秀賞を受賞。その後の全国学級新聞コンクールに十勝代表として推薦出品された3学年の新聞は、佳作を受賞することができた。



3 新聞づくりの成果と課題

今年度は新聞に関するコンクールで多くの入賞があり、生徒の達成感を高め自信にもつながっている。特に模造紙サイズでつくるかべ新聞は本校の伝統になっており、学年が上がるほど意欲的な取り組みがみられる。また、歴代の作品は掲示されており生徒は過去の作品や先輩の活動を直接見ることで、どのように制作に取り組みればいいのか迷うことなく活動することができる。

しかし、他の学校同様制作に時間がかかることや少ない生徒で完成させなければならないため、生徒の負担が大きいという課題がある。

4 新聞を活用した学習の実践

(1) 社会科での実践①

「あなたが考える2013年の10大ニュース（道内・国内・国際）」

全学年で取り組んだ。道新が年末に行った企画に合わせて取り組んだ。道内・国内・国債の3分野に分かれていたので、3学年は道内、2学年は国内、1学年は国際に目を向けさせ、過去の新聞記事から道新が選んだ30の記事をスクラップさせた。その後、スクラップした記事が発生順に掲示し1年の流れを確認し、特に重要だと思われる記事10を選ばせた。

生徒は1年を振り返り、忘れていた出来事を新聞記事から再確認することができた。



(2) 社会科での実践②

「長期休業中の新聞スクラップ」

2学年が夏・冬休みの課題として新聞スクラップを制作した。日本のできごと、世界のできごと、政治のできごとに関して記事を選び、どこで起きたできごとなのか地図に書き込ませるなど、まとめ方を工夫させた。

休み明けの授業では、目次や感想などの仕上げを行い完成させた。全十勝中学校新聞スクラップコンクールに出品し、最優秀賞1名、佳作1名受賞している。



2学年 社会科

新聞スクラップブックについて

社会科の課題で行った「スクラップブック」をコンクールに出品します。そのため、翌のことをまとめて各自完成させましょう。コンクールの入賞目指して頑張ろう！

① 表紙について

1. ノートにタイトルをつけます。
例：夏休み中の日本の出来事
例：新聞からわかる夏休みの出来事 など
2. 学校名、学年、名前を記入
3. その他の工夫
色ペンなどで工夫するといいですね

② ページともくじについて

1. 記事を読んだページとわかったことをまとめたページにページ番号を書きます。（上下どこでもかまいません）
2. はじめのページにもくじをつくり、どの記事がどのページにあるのか書きます。

③ 最後のページについて（最後のページは自由な内容のページに自由な内容で可）

1. 1冊印象に残った記事や自分の感想
これまでの新聞を読んで1冊印象に残っているのはどんな記事か、また今回新聞スクラップブックに取り組んでの感想などを書いてみよう。

もくじ

富士山世界遺産に・・・	1
東京五輪決定・・・	3
田中24連続・・・	5
楽天日本一・・・	6
北海道シオハーク・・・	7
ソチ五輪開幕・・・	9
感想・・・	11

(3) 新地球学での実践

「防災について考える」

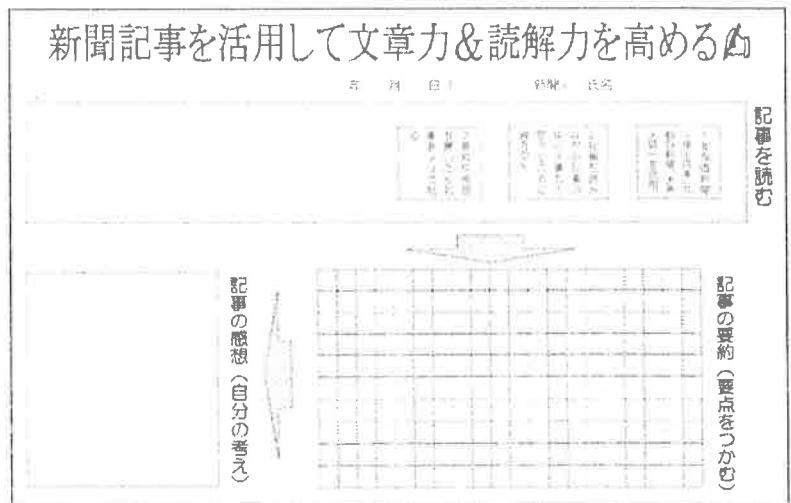
1学年の公開授業で、防災について考える展開の前半部分での活用だった。記事に登場する三嶋さんはもともと鹿追に住んでいたが、その後陸前高田市に移りそこで被災した。同じ町に住んでいたこともあり、面識がある生徒もいた。そのため生徒は東日本大震災をそれまでよりも身近なものとしてとらえ、深く考えるきっかけとなった。



(4) 新聞のコラムを活用した家庭学習指導の実践

本校では各学年で家庭学習指導を行っている。高校入試をひかえた3学年では家庭学習の一つとして、新聞のコラムを読み、文章の要点をつかみ、自分の考えをまとめさせる活動を行った。

文章として短くわかりやすいコラムは生徒の読解力を、自分の考えをまとめさせることで文章力をそれぞれ高めることができた。



5 新聞を活用した学習の成果と課題

今年度は新聞提供事業を受けることで、新聞記事を活用した実践を行うことができた。生徒にとっても新聞が身近なものとなり、今日はどんなことが書いてあるか興味をもって目を通す生徒もみられる。

しかし、新聞に関心をもっているかについては生徒間の個人差があるので、今後も授業の中で新聞記事を活用することを継続させ、生徒の関心を高める必要を感じた。



